Partial Translation of JP-A 3-71561

Part A (Page 1)

- 1. A solid electrolyte fuel cell in which gas passage plates formed of a heat resisting metal are respectively disposed on back surfaces of electrodes of a platy cell composed of an anode electrode, a solid electrolyte layer, and a cathode electrode, wherein a coating layer of conductive ceramics selected from silicide, carbide, and nitride is formed on an abutting part of the gas passage on the anode electrode.
- 2. The solid electrolyte fuel cell according to claim 1, wherein the silicide, carbide, and nitride are $MoSi_2$, TiC, and TiN respectively.

Part B (Page 2)

A pair of gas passage plates (5)(6) which hold the cell (1) so as to be sandwiched therebetween are formed of a heat resisting material such as nickel chrome alloy.

The gas passage plates (5)(6) each have supplying grooves (5') for fuel gas on the anode side gas passage plate (5), and supplying grooves (6') for oxidant gas on the cathode side gas passage plate (6).

An abutting portion of the anode side gas passage plate (5) on the anode electrode (3) is coated by TiN (electric conductivity of 5×10^4 s/cm), which is a conductive nitride ceramics, so as to be a thin layer (7)

Partial Translation of JP-A 3-71561

having a thickness of 5 to 10 μ m by use of an ion plating method. For the coating materials, there can be used, in addition to TiN, materials showing a stable conductivity in an atmosphere of high-temperature reduction and oxidization, such as MoSi₂ (electric conductivity of 2 × 10^4 s/cm) and TiC (electric conductivity of 1 × 10^4 s/cm).

An abutting portion of the cathode side gas passage plate (6) on the cathode electrode (4) is coated by perovskite oxide selected from LaCrO₃, LaMnO₃, LaCoO₃ and the like which show a stable conductivity in an atmosphere of high-temperature oxidization, so as to be a thin layer (not shown) similarly to the above.

As the coating method, in addition to the ion plating method, a spattering method, various spraying methods (plasma spraying, arc spraying), and a chemical vapor deposition (CVD) method are applicable.

Part C (Page 3)

[BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS]

Fig. 1 is a sectional view of a platy unit cell of a solid electrolyte fuel cell according to the invention.

Fig. 2 is a part enlarged sectional view taken on line X-X of Fig. 1.

Fig. 3 is a comparative view of characteristics of fuel cells.

Partial Translation of JP-A 3-71561

- 2 SOLID ELECTROLYTE LAYER
- 3 ANODE ELECTRODE
- 4 CATHODE ELECTRODE
- 5, 6 GAS PASSAGE PLATES
- 5' FUEL GAS SUPPLYING CROOVE
- 6' OXIDANT GAS SUPPLYGIN GROOVE
- 7 COATING LAYER
- 8 RESERVOIR
 - 9 MELTED BODY FOR SEAL

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

03-071561

(43) Date of publication of application: 27.03.1991

(51)Int.CI.

H01M 8/02 HO1M

(21)Application number: 01-206142

8/12

(22)Date of filing:

09.08.1989

(71)Applicant: SANYO ELECTRIC CO LTD

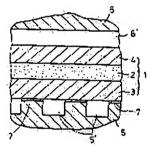
(72)Inventor: MURAKAMI SHUZO

AKIYAMA YUKINORI ISHIDA NOBORU SAITO TOSHIHIKO

(54) SOLID FLECTRODE FUEL CELL

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent oxidation due to moisture in fuel gas and stabilize the characteristics of a cell for a long time by forming a covering layer of conductive ceramics having resistance to oxidation and reduction at a portion where the covering layer comes into contact with the anode electrode of a gas passageway plate. CONSTITUTION: A plate cell 1 is formed of a electrolytic layer 2, an anode electrode 3 and a cathode electrode 4. A pair of gas passageway plates 5, 6 which sandwich the cell 1 have a fuel gas supply groove 5' on an anode-side passageway plate 5 made up of heat resisting metal and an oxidant gas supply groove 6' on a cathode-side passageway plate 6. A portion where the passageway plate 5 comes into contact with the anode electrode 3 is covered with a conductive ceramics layer 7 selected from such silicide, carbide and nitride as MoSi2. TiC and TiN. Thereby, it is possible to prevent oxidation of a contact portion due to moisture contained in fuel gas and stabilize the characteristics of a cell for a long time.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision

⑩日本国特許庁(JP)

OD 特許出願公開

®公開特許公報(A) 平3-71561

庁内整理番号 绘别記号 Mint. Cl. * 9062-5H 9062-5H 9062-5H EB H 01 M 8/02 8/12

@公開 平成3年(1991)3月27日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

民体管軽管燃料電池 の発用の名称

頭 平1-206142 @特

平1(1989)8月9日 **₽**₩

E. ш 秋 容 石

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内

苍 孝 仍発 珥

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内

三洋電機株式会社 சி 題 弁理士 西野 点期 四代 理

外2名

1. 発明の名称

アノード極・図体電解費用・カソード極か るガス重路板を夫々配置した図体電解要徴 において、前記ガス通路の前記アノード抵 と接触する部分に、ケイ化物、炭化物、産化物か ばれた導電性セラミックスの被覆層を形成し たことを特徴とする図体電解質燃料電池。

前記ケイ化物・炭化物・変化物は夫々Mo Si、TiC、TiNであることを特徴とする 請求項1の団体電解質燃料電池。

3. 発明の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

本発明は高温図体電解質鑑料電池に関するもの である.

(ロ) 従来の技術

本週因体電解質燃料電池(以下SOFCと記

す)は、図体電解質内での酸素イオン導電性を利 用して燃料ガスと酸化剤ガスを反応させるもので ある。固体電解質層及び対向極を平板状に重ねた セルでは、各価背面に反応ガスの供給及び集電の ためガス通路根を設ける必要があり、このガス通 路板としてニッケル・クロムを主体とする耐熱性 合金が検討されている。

しかしこれら合金中に含まれているクロムやマ ンガンなどは、ニッケルに比し敗業ポテンシャル が低いため酸化皮膜を形成しやすい。この皮膜の 游電性が極端に低く(導電率10~13~10~)* m /cm) 集電部分の接触抵抗を着しく増大させ る。そのためカソード観ガス通路板のカソード極 と接する部分に導電性の金属複合酸化物を被限す ることが提案されている。(特別平1-1008 6 6 号公報)。

一方アノード側ガス連路板はアノードガスによ る還元雰囲気下にあるけれども、アノードガスに 含まれるスチーム(H ++ 1/20 * → H + 0 + 2 e ~ による生成水)によりCァやMaが酸化される。

特周平3-71561(2)

例えば1000ででで「はH:/H:O<10*/1 MnはH:/H:O<10*/1 の数量の水分でも酸化される。 (NiはH:/H:O<1/100でなければ酸化しない。) 通常アノードガス中には10%程度のスチームが含まれているので、Ni以外のCr、Mnは運元が関係下でも酸化が進行して非電性の低下をもたらし、アノード極との接触低技を増大させるという問題があった。

(ハ) 発明が解決しようとする課題

本売明は美期に亙ってガス通路板とアノード領 調の電気的接触状態を安定化するものである。

(二) 舞風を解決するための手段

本発明はアノード版・固体電無質層・カソード 極からなる平板状セルの各種背面に、ニッケルー クロムを主体とする耐熱合金製のガス通路板を配 配したSOPCにおいて、前記ガス通路板のア ノード艦と接触する部分に、導電性セラミックス の被理層を形成したものである。前記等電性セラ ミックスはMoSi。(ケイ化物)、TiC(膜 化物)、TiN(変化物)から選ばれる。

供給課(5')を、カソード開ガス通路板(6)に轍 化剤ガスの供給課(6')を決々有する。

このアノード側がス通路板(5)には、アノード 低(3)と技する部分に予め導電性の変化物系セラ ミックスであるTiN(導電本5×10 *a/cm)をイオンプレーテング法により厚み5~10 μmの再層(7)として被覆する。被覆がとしてTiNの他にMoSi。 (導電率2×10 *a/cm)、TiC(1×10 *a/cm) などの高 鑑定元・歳化雰囲気において安定な導電性を示す ものであれば使用できる。

一方カソード側温路収(6)のカソード板(4)と 接する部分に、高級酸化学四気で安定な事電性を 深すLaCrO。、LaMnO。 LaCoO。な どから選ばれたペロプスカイト型酸化物を、前記 と同様に再帰(図示せず)として被覆する。

被関弦としてイオンプレーテングの倫スパッタ リングは、各種溶射法(プラズマ溶射、アーク溶 射)及び化学高着(CVD)法なども採用でき

(本) 作用

本規則では耐酸化性・耐湿元性に優れた導電性 セラミックスの被関層がガス通路板のアノード低 と接触する部分に形成されているので、長期に 互って接触部の導電性を安定に保ち電池特性の低 下を防止する。

(へ) 実施例

第1関は本発明平板状単セルの断面図、第2関 は第1関のXーXによる異都拡大断面図を示す。

平板状セル(1)は8%イットリアで安定化した ジルコニアの焼成体からなる電解質用(2)と、 NiーZrO。サーメットからなるアノード紙 (3)とLa。。Sr。iMnO。などのペロプスカイト型酸化物からなるカソード紙(4)とで構成され、これら各紙(3)(4)は電抵構成材料末を含むスラリーを電解質層(2)の各面の夫々0。2m厚で塗布して後焼成した。

このセル(1)を独特する一対のガス通路板(5) (6)は、ニッケルクロム合金などの耐熱性金属からなり、アノード側ガス通路板(5)に燃料ガスの

商第1 国実施例で下方のガス通路板(5)と一体 にセル(1)と上方のガス通路板(6)を東西な遊邸 (8)を形成し、この遊師(8)に、パイレックスガ ラス (商品名) のような非導電性高粘度融体(9) を満すことによりシール部を形成した場合を示した。

英联

ニッケル 基合金 (Ni 8 0 %、Cr 2 0 %)上に、夫々TiN、TiC及びMoSi。を序み5 ー1 0 μ m 被覆した3 つの試料と比較のため被覆しないニッケル基合金とを1000 で H。/H。O m 9 / 1 の雰囲気中で500時間放置した。500時間後3 つの試料の表面導電率を測定したところいずれ610 ペー10 % a / cmのオーダーであり、殆ど変化はみられなかった。一方被覆層のないものは表面導電率が10 % a / cmオーダーと振端に低下していた。

又それぞれの表面をX施分析したところ、比較 試料では母材であるNi、Cr以外にCr $_1$ O $_1$ の 酸化物が検出されたが、3つの試料ではCr $_1$ O $_1$ B

特周平3-71561(3)

は検点されず良好な存電性を維持できることが確認された。

本発明セルを所定条件で1000でまで昇温し、燃料ガスに日。(反応生成水として10%のスチームを含む)、酸化剤ガスに0。を用い、300m人/cu[®]にて運転した場合の特性を第3因に示す。また比較のためアノード極との接触部分にTiNの被関層を有しない関係のセル特性を点線で示した。比較セルでは300時間経過接着しい特性の低下が見られるに対し、本発明セルでは安定した特性を示すことがわかる。

500時間経過後落転を中止してルを分解した ところ、アノード低と接触するガス通路板部が本 発明セルでは殆ど変化していないのに対し、比較 セルではダークグリーンに変色していた。これは Cr:0:の生成のためで、接触低抗の増大原因を 示していた。

(ト) 発明の効果

本発明によれば耐熱性合金よりなるガス通路板 のアノード極と接触する部分に、耐酸化性・耐温 元性にすぐれた導電性セラミックスの被覆層を形成したので、燃料がス中に含まれる水分による接触部分の酸化を防止し、長時間に買って電池特性の安定化を固ることができる。

4. 図面の筒草な風明

第1団は本発明固体電解質燃料電池の平板状単 セルの新画図、第2団は第1団のX~X線による 要都拡大新画図、第3団は電池特性比較関であ ***

2 … 図体電解質層、3 … アノード極、4 … カソード極、5 。6 … ガス通路板、5 * … 微料がス 供給課、6 * … 酸化剤がス供給課、7 … 被関層、 8 … 遊都、9 … シール用蓋体。

> 出職人 三洋電機株式会社 代理人 弁理士 西野卓嗣(外2名)

